

3歳目を失い、ぼうぜんとして見守るサポーター
17日、鳥取市蔵田のとりぎんバードスタジアム

「おれ」

柿の雁位を巨指しては「いい」と話した。
この日は午前中の雨。地としての受け入れ態勢の整備へ協力を呼び

自社LED技術 活用し植物工場

鳥取市内で発光ダイオード(LED)照明の製造開発を手掛けるメーカーが、障害者福祉サービス事業を手掛ける関連会社を設立し、自社工場の空きスペースを活用して植物工場を始めた。自社のLEDの特性を生かし、低コストでの導入が可能という。ビジネスと障害者雇用の両立を目指しており、「IDEAL(アイディアル)方式」としてプラントの販売も視野に入れる。

HRD 鳥取市 新ビジネスを展開

使って育てたレタスなどの葉物野菜を鳥取市内の飲食店などに販売している。

自社のLEDを使って大阪府内のメーカーと共同開発したミニ野菜栽培システムで育苗し、成長後にLED照明が配置された棚で栽培。現在、葉物野菜を1日約120株収穫しており、今夏までに500株程度まで生産量を引き上げたい考えだ。

障害者雇用の受け皿に

栽培には放射熱が少なく、太陽光に近い自社開発のLEDを使用し、通常よりも短期間での出荷が可能になるという。閉鎖型の植物工場では、一資が必要だが、液肥に乳



自社製のLED照明を活用した植物工場の様子＝鳥取市津ノ井のHRD

酸菌などの有用菌を加えることで雑菌の繁殖を防ぐことに成功し、初期投資も大幅に抑えることができた。

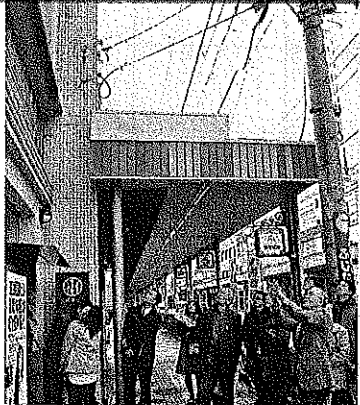
障害者雇用を目的とした関連会社「HRD iDEAL」が事業を担当し、電子部品の組み立てなど従来作業と組み合わせながら、約20人体制で収穫や管理、野菜のカットなどを行う。今後は栽培品目を増やすほか、地元飲食店や市場を中心に販路を広げることで、雇用の安定につなげる方針。

原田社長は「閉鎖型の工場でありながら、従来の方式に比べて省エネでランニングコストも抑えられる。栽培できる植物を増やすなど技術を磨き、安定生産を売りにブランド化を図りたい」としている。

境港へのクルーズ客船の寄港とその効果について説明する小倉事務局長。16日、米子市加茂町2丁目の米子商工会議所会館



きな経済効果がと説明。「歓迎」やオプショアなど一緒にいきたい。直近として境港、米山などの魅力と呼び掛けた。県国際観光推進馬田浩一課長は人観光客誘致のみを説明。4日月、中国の美食一行が30、50人



五臓圓ビルの価値を再確認
鳥取で講演、見学会
国登録有形文化財
建造物に登録され、見学会が行わ